

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|-----------|--|
| 事業所番号 | 2470501418 | | |
| 法人名 | 有限会社 すずらん | | |
| 事業所名 | グループホーム潮風 | | |
| 所在地 | 三重県津市阿漕町津興214番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年1月31日 | 評価結果市町提出日 | |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigvoNoCd=2470501418-00&PrefCd=24&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 29 年 2 月 20 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族も含めた大家族と捉える中では、日常的にご家族との交流がある。入居者様を中心に職員ともざっくばらんな関わりを持たせて頂いていて、実家のように気軽に寄って頂いている。オープンで、明るい家庭的な雰囲気が自慢です。昔取った杵柄を発揮して頂き、職員と一緒に家事を協働しています。終の棲家としてご本人・ご家族の最期の迎え方を尊重し、看取りをさせて頂いている。終末期の迎え方についてはご家族の方向性に寄り添い、柔軟な対応をさせて頂いている。主治医・看護師の指導を基に、ご家族と潮風職員が心を合わせ、心穏やかに終末期を過ごして頂く中で、尊い看取りへと繋げさせて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると正面に雛人形、居間兼食堂は広くて明るく、職員と利用者の作品や写真が、プロがレイアウトした小ギャラリーかと思わせる居心地の良い開放的な空間となっている。高齢者介護に豊富な経験と見識を持ち、利用者や家族・職員に全幅の信頼ある管理者の下、地域社会との繋がりを大切にしながら、何事も利用者本位での暮らしを重視している。全ての支援でオンリーワンを目標に、家庭的な雰囲気のなか職員は何時も笑顔で接しており、全ての利用者の表情が明るく穏やかであり、利用者のペースで生き生きと生活している様子が伺える。管理者から『調理は愛情、食事は命』との思いから、毎食旬の食材に拘った職員手作りの美味しい料理が用意され、職員と共にする食事が一番の楽しみとなっている。又、重度化・看取りの支援については、協力医と管理者・職員との密接な連携の下、家族に『重度化、看取り支援の指針』を説明し、本人・家族の思いを受けた看取り支援がされていることから、医療機関等からの入居依頼もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | その人がその人らしく暮らせる、個々に合わせたオンリーワン支援・笑顔溢れる暮らしを大切にしている。利用者を中心にご家族様・職員が思いをひとつにした日常的な関わりの中で我が家のように自然体で過ごして頂いています。 | オンリーワン支援のモットーは、朝の申し送り(ミーティング)等で再確認の上全職員が共有し、何事にも常に笑顔で接し、利用者本位で、心豊かに、笑いのある、利用者ペースでの暮らしの支援が実践されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会・子供会・幼稚園・地域ボランティア・地域内病院等の行事に参加したり協力したり、日常的な交流をしている。又職員・地域の方との減塩味噌作りも少しづつ広がりを見せ、健康作りの一貫として、地域活動として根づいてきた。 | 事業所は地域との繋がりを最も大切と考えている。特に近隣の農家とは日常的に野菜の差し入れ等、親戚同様のつきあいがある。又、健康づくりの一環として地域の方との減塩味噌づくり、子供会や園児の慰問、フラダンス等、ボランティアを沢山受け入れている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の方、家族の方に対する介護相談会に参加したり、個々の相談に応じる等の支援を日常的に心掛けている。又、認知症対応施設として、気軽に相談に応じられる窓口である事を、行事の機会を通して発信させて頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域の中の介護事業所として、潮風の現況報告及びその時々課題等その取り組み状況を提示する機会とはなっているものの、活発な意見交換とまでは至っていない。熱心に参加して下さる方が居る一方で、欠席者も多く、内容の精査必要と認識している。 | 運営推進会議の必要性は良く理解されて、会議には多くの利用者と市の担当者、自治会長、民生児童委員等が参加している。事業所の運営状況が詳細報告され有意義な会議となっているが、3月の開催予定を含めて、年4回の開催に留まっている。 | 運営推進会議は地域の理解と支援を得るための大切な機会である。市・自治会の協力を得ながら、参加者を固定せず、身近なテーマにする等気軽に取り組み、定期的(隔月程度)に開催される事が望まれる。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 疑問点等、日常的な相談に対して気軽にに応じて頂いている。その都度細やかなアドバイスや指導が頂けるのでとても心強い。 | 運営推進会議の機会に相談や情報交換している。管理者が地域のグループホーム事業所のリーダー的な存在であり、市の担当者とは定期的に、又、事ある毎に相談・情報交換し、連携が図られている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアについては、禁止となるその具体的な例をあげ説明している。個々に適した方法については、その都度最適と思われる方法を提案、安全安楽を第一に考えて、慎重に議論している。 | 管理者がケアの場において日常的に指導し、職員は身体拘束の弊害等について良く理解している。又、管理者が職員と一緒にケアの場におり、気になる言動等があればその都度注意し指導することで、身体拘束のないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法律の内容・課題背景を示し、虐待のない介護を徹底している。介護リスクを全体の問題として捉える中で情報を共有し、職員の介護ストレスが虐待に連鎖しないように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護についてはマニュアルを常備し、理解できる様に努めている。12月潮風において看取りを行った入居者1名も成年後見制度を利用されていた。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居に至るプロセスを聞かせて頂く。ご本人やご家族の思い・要望等を十分に傾聴させて頂き、話し合っていく中で、潮風とご家族の相互理解を深め、思いをひとつにした上での契約とさせて頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日々の関わりの中で、思いを言い出しやすいように声かけを行うようにしている。面会時を利用してご本人の状態を示し、近況報告を行う中でご家族の思いや要望を聞かせて頂き、その要望の実現に向けた支援を工夫している。 | 面会時や毎年『敬老の日』に家族会を開催、又、ケアプランの更新時に家族の希望を聞く機会を設けているが、現状は日頃の支援に対し感謝の言葉が多く、意見や要望は聞けていないので、何事でもどんな事でもいいから言ってもらえる雰囲気づくりに心掛けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日々の業務の中で情報の共有・情報交換を密にしている。情報共有ノートを日常的に活用し、その時々意見や提案・困りごと等を記入する中で、リアルタイムでの問題解決へと繋げている。 | 管理者は気になる言動には厳しいが、職員には全幅の信頼があり、管理者と職員とのコミュニケーションは大変良い。管理者は職員の意見やアイデアはまず受入れ1回実践させたいえ、ケアの向上・運営に活かしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々のライフスタイルを優先した勤務スタイルの実現に努めている。個々の職員のモチベーションが高められるような支援を心掛け、頑張った職員が報われるような賃金体系へと繋げている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 苦手分野のある職員には、力量のある職員、管理者が克服に向けたサポートを心掛けている。自信を積み上げる中で個々の力量が高められるようにその都度可能な方法で資質の向上に向けた指導・内部学習に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型協議会・認知症家族の会・小規模ケア研究会・医療関係者との交流を深める中で、見聞を広めたり、その学習会等を活用しサービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントした情報を含めた中でゆったりと傾聴し、ご本人ご家族の願いや希望等、真の思いを引き出すようにしている。寄り添う中で信頼関係を築き上げ安心感を持って頂けるような関係作りへと繋げている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居に至るまでの苦悩や葛藤をゆったりと傾聴させて頂く中で、不安に思っている事、求めている事等を把握するように心掛けている。本音が吐き出して頂けるような対話を心掛け、信頼関係が構築出来るように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 表面的な訴えだけに捉われることなく、対話していく中から、真に必要な事を見極めていくようにしている。相談内容を傾聴する一方で専門職としての見解を示し、必要な支援へと繋げていくように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々の家事等、個々の出来る事は職員と協働で行って頂き、共に仕事をする中で得意を發揮して頂くようにしている。本人の意欲を引き出し、達成感を感じて頂く事が、自信の回復及び生活力の喚起へと繋がっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者・ご家族・職員がひとつの家族であり、日常的に交流がある。本人にとっては潮風が我が家であり、ご家族にとっては実家となっている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の希望やご家族様の情報を聞かせて頂き、今までのご本人を取り巻く関係を勘案する中で、可能な限り入居までの関係が途切れないように、大切に支援させて頂いている。 | 利用者は比較的地域内の方が多ことから、家族は勿論友人が気軽に面会出来るように配慮している。又、家族の協力の下、自宅や子供の家、墓参り、買い物、家族と食事、馴染みのかかりつけ医への通院に出かける等、馴染みの関係が途切れないように支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご本人の性格・趣味・職業等、今までの暮らし方・生活環境、又、身体状態も勘案しながら、相性の方を見極め、良好な関係づくりへと繋げていけるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院をされた方・ご家族と一緒に看取りをさせて頂き退居された方そのご家族が立寄って下さる。現在日常的に交流させて頂いている。行事・推進会議・慰問等行事にも声掛けして参加して頂いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人やご家族の思い希望をしっかりと聞かせて頂く中で、ご本人にとって最適な方法を引き出していけるように努めている。 | その日の体調や表情、しぐさから、又、家族の希望も踏まえ利用者の思いや意向を把握している。把握した事は情報共有ノートに記録のうえ職員皆が共有し、本人本位での暮らしが出来るように支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴や過ごし方等、ご家族からの情報のもと、今までに慣れ親しんだ暮らし方が尊重出来るように、常に心掛け潮風での生活に反映出来るように支援させて頂いている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の暮らし方や価値観を尊重した日課を工夫する中で、生活力の喚起が図れるような側面的な支援を心掛けている。その時々思いや希望を取り入れた生活が可能となるように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | どのように過ごしたいと思っていられるのか、ご本人・ご家族の要望を聞かせて頂く中で、細かな状態の変化に応じた支援方法を検討し、ご本人らしい生活の実現に向けた介護計画を考案させて頂いている。 | 日々の介護記録を基に、3ヶ月～6ヶ月(特に変化のない方)毎に全職員が利用者毎のケアの実態を評価(モニタリング)し、職員の意見を集約のうえ、状態に変化があればその都度、変化が無ければ介護更新時に家族の希望を聞いて計画の見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録を基本に捉える中で、リスク管理する為に必要な情報の共有・特記の記録・個々の状態に応じたリアルタイムでの詳細な援助方法を、情報共有ノートとして日常的に活用し個別な支援へと繋げている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。日常的にご家族との交流もあり、その都度の状況に合わせた最適な方法を話し合う機会となり柔軟な対応が可能となっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 自治会・子供会・民生委員・幼稚園・ボランティアさんの協力をはじめ、医療福祉関係者等との交流を通して社会性の充実を図り、安心して安全に暮らせる生活作りに努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 個々の入居者・ご家族の意向を反映した上で、協力医による定期往診及び24時間対応による随時の相談・往診体制をとっている。 | かかりつけ医は、本人・家族の希望で全利用者共定期的な往診、緊急時の対応が可能な協力医となっている。専門医の通院は原則家族となっているが、全て管理者が同行し事業所での状態を医師に説明する等、医師との連携が図られ適切な医療支援がされている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力病院の看護師には日常的に相談している。医師の所見を含めたアドバイスがその都度あり、とても安心感が持てる体制を構築している。又、地域の看護師との交流も多く情報交換も密にしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご家族・医師・看護師・ソーシャルワーカー・病院関係者との日常的な交流をおこなう中で、そうした時に最適な対応が可能となるような関係作りの構築に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期のあり方については、日頃からご家族・主治医との話し合いを重ね、万が一に備えている。並行して個々の終末期のあり方についての情報を、職員間で共有、その方とご家族にとっての最適な終末期ケアに向けて意思統一を図っている。 | 事業所は、重度化や終末期の支援については、家族の希望があれば医師との連携で看取り支援する方針であり、既に多くの見取り支援がされている。職員も同じ思いであり、特に職員が心理面で不安となる夜間は管理者が泊まり込んだり、連絡すればすぐに駆けつけてくれることで利用者と寄り添う看取り支援が出来ている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 個々の身体状況については、各職員が日常的に把握し予測される事態に備えている。一方で慌てず的確な行動・適切な対応が可能となるよう、日常業務の中で話し合いを深め実践している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時の対応については、その時々有効な方法をリアルタイムで情報発信するようにしている。入居者・職員の意識づけをはじめ、ご家族に対しての情報共有を欠かさず行うようにしている。地域との情報交換の場としては運営推進会議を活用している。 | 年2回、火災や地震想定避難訓練が予告なしで行われている。津波対策は公的な情報をリアルタイムに職員・利用者へ発信し、素早く避難出来る様に心掛けている。又、各居室のドアには、利用者毎に車椅子か歩行で避難するか等掲示され、トイレには備蓄水が用意されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々のプライバシー・プライド・人格の尊重等については、職員間で十分に意思統一を図り、個々に応じた、その人にふさわしい方法をその都度工夫している。 | 利用者個々の性格や気質に合わせたケアを常に意識し、利用者毎の思いや意向は否定せず何事にも笑顔で接している。排泄時は勿論風呂場に目隠しカーテンをつけたり、耳の遠い方への声掛けの配慮、少し気になる言葉掛けがあればその都度管理者が注意している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の気持ちに寄り添う中で、その時々々の思いを共有共感するように心掛け、真の思いが意思表示して頂けるように、側面的な働きかけを行うように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自信を持って生活して頂けるように、職員はさりげなく、その日の身体の状態や精神面に配慮しつつ、本人の希望を取り入れた過ごし方が可能となるように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着心地・着脱を優先しつつ、希望あるおしゃれを楽しんで頂けるようにしている。基本的には、その人らしい清潔感のある身だしなみをモットーにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 栄養だけに捉われず、その日の入居者のリクエストに応えたり、旬の食材を献立に加えたり、食事が楽しみとなるよう工夫している。又職員も交えてテーブルを囲み、会話しながらの食事も楽しみな貴重な時間となっている。 | 料理は自慢だとの通り、献立・調理は利用者の好みも入れて、管理者が主に旬の食材を用意し、職員が交代で手作りの減塩味噌を使った美味しい料理が出され、職員も一緒に同じテーブルでの楽しい食事タイムとなっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | カロリー・栄養配分・水分量・好み・主治医の意見等を勘案する中で、個々の摂取の目安を決めている。個々の口腔機能に応じた調理形態や好みを考慮して、食事を楽しみとして頂けるように努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯磨きやうがい・必要に応じた残差物の除去などその方に応じた方法で口腔内を洗浄、義歯については夜間は外し洗浄後ミルトン消毒する等、個々の状態に応じた方法で口腔内の清潔保持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 尿意のある方・ない方を問わず、特別な事情のない限り、日中はトイレ使用を基本とし、自然な排泄が可能となるように支援している。定期・随時に気配や訴えに対応する中で、自立に向けた側面的な支援へと繋げている。 | 基本は排泄記録をベースに声掛け誘導でトイレでの排泄支援である。利用者の大半が自立でトイレでの排泄が可能であり、その日の体調やしぐさから声掛け誘導と見守りにより、トイレでの排泄が出来るように支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々の排泄パターンを確認した上で、食生活を工夫し整腸に努めている。必要に応じて腹部マッサージを試みたり、体操・散歩・歩行練習等気分転換を兼ねながらの運動も日課に取り入れるように努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 清潔保持・血流の向上・爽快感を視野に入れた健康管理の手段として、特別な事情のない限り、工夫した声掛けをおこない入浴して頂いている。複数の入浴剤を日替わりに選び入浴が楽しみとなるように支援、気分転換にも役立ち健康維持の繋がっている。 | 基本は、清潔保持や血流の向上等の為に毎日の入浴としているが、毎日の入浴希望はなく、現状はその日の体調を見ながら無理強ひせず、概ね週3~4回(南棟・北棟に2分割して1日おき(交互))にゆったり入浴している。入浴剤を好む方は複数の入浴剤を選んでの楽しい入浴となっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 出来る限り楽しみながら時間を共に過ごす1日1回屋外に出て日光浴(体内時計のリセット)をしたり、個々の状態に合わせて散歩を楽しんで頂く等、夜間の良眠へと繋げている。そんな中でも個々の眠りに合わせた就寝・起床時間を優先している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋にて薬効・薬害・服用方法を確認する事を基本とする一方で、情報共有ノートを活用し全職員の認識を深めている。日常の関わりの中の微妙な状態の変化を察知する視点を常に持ち、日々関わるように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 能力に応じた家事を手伝って頂く中で自信の回復・自信の喚起へと繋がるよう工夫している。職員も含めた大家族の中で出来る限り家事を分担し協働する事が自身の役割意識・連帯感・達成感へと繋がっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外気浴や散歩は近隣の方とのふれあいや季節を食じて頂く機会となっている。機会を見つけての外出や外出等も随時対応。ご家族との外食・外出を楽しまれる方もみえる。自治会・子供会・ボランティアさんとの行事も交流の機会となり楽しまれている。 | 天気が良ければ玄関先のベンチで外気浴とお茶会、近場の散歩で近所の方とのふれ合い、ドライブを兼ねて手作り弁当持参で季節に合わせた花見(梅・桜・紫陽・紅葉)や、苺狩り・外食・夏の風物は何と言っても玄関先で楽しめる津の花火大会の観賞等多彩な外出支援がされている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人・ご家族の意向の沿って対応させていただいている。小遣い程度をお守りの様に自身で持っている方もみえるが、使い道なく自身で持っているという満足感にとどまっている。(希望されるものをおやつや献立に加えている) | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族や知人との交流が活発に継続して頂けるよう支援している。その都度の訴えに耳を傾けながら、その時々思いの実現に必要な支援に努めている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 食堂・リビング等の共同スペースは邪魔にならないような、職員手作りの季節毎の展示で彩られている。施設内外には季節行事等思い出の詰まった写真を掲示、足を止め満足気に眺めては楽しみ、会話の糸口にも繋がっている。 | 共用空間全ての掃除が行届き清潔であり、全てのダンスやキャビネットに何が入れられているか詳細に表示され整理整頓されている。玄関を入ると正面に雛人形、居間兼食堂は広くて明るく両サイドの壁には利用者と職員の作品、写真が上品な大人の雰囲気ですンプル且つきれいに飾られ居心地の良い空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂・リビングはふれあい・交流を楽しむ空間として、所々に配置されているソファでは親しい人のおしゃべりやご家族とのくつろぎの場として、独りになりたい時は居室に行かれたりと、家庭的な雰囲気の中で思い思いに自由に過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 慣れ親しんだこだわりの物を個別に使用して頂いている。違和感なく落ち着いた気持ちで過ごして頂けるような環境(居室)作り等、ご本人・ご家族の希望を十分に取り入れながら、その実現に努めている。 | 各居室は利用者毎の体調や習慣に合わせ、ベッドの位置、手すり、出入り口までの動線がよくわかる敷き物が置かれ快適な暮らしが出来る様に工夫されている。又個々には馴染みやお好みの家電、小物、なかにはギターが持ちこまれ思い思いの部屋づくりとなっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の出来る・事出来ない事の詳細把握に努める中で、状態に応じた支援を工夫している。身体・精神的な残存機能を勘案する中で、個々の動きに合わせた動線を確保し安全な環境の中で、自立に向けた側面的な支援に努めている。 | | |